

創造性とジェンダーステレオタイプ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-07-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川上, 正浩 メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4857

創造性とジェンダーステレオタイプ

川上 正浩

臨床心理学専攻教授

要約

本研究は、創造性をパフォーマンスの視点から測定する日本語版 RAT と、主に態度の側面から測定する尺度（質問紙）の両面から測定し、これらが性差意識と関連していると仮説を立て、検討を行った。女子大学生 65 名に日本語版 RAT（寺井ら, 2013）、創造性尺度（Basadur & Finkbeiner, 1985）を用いて、その創造性について測定し、さらに、伊藤（2001）の性差意識尺度を用いて性差意識を測定した。創造性尺度からは因子分析の結果“積極的拡散の重視”、“性急な収束の重視”、“効率の重視”の 3 つの因子が抽出された。性差意識尺度からは、因子分析の結果、“特定場面におけるジェンダー適性”、“養育場面におけるジェンダー適性”、“緊急場面におけるジェンダー適性”、“教育場面におけるジェンダー適性”、“女性蔑視”の 5 因子が抽出された。創造性と性差意識との相関分析を行った結果、日本語版 RAT 得点と“養育場面におけるジェンダー適性”との間、“性急な収束の重視”、“効率の重視”と“女性蔑視”の間に弱い関連が示された。すなわち、創造性が高いことと性差意識が弱いことの間に関連がある可能性が示唆された。

キーワード：女子大学生、創造性、性差意識

I 問題と目的

ステレオタイプとは、学校や社会などの集団、性別、職業、民族といった社会的カテゴリーに対して人々が持つ「型にはまった考え方」（小川・和田, 2021）である。このステレオタイプの中で、男性・女性といった性別と、それに関連する性格や役割について人々が共有する構造化されたイメージ（高井・岡野, 2009）あるいは、「女性、男性という社会的カテゴリーのメンバーに関する知識構造」（坂田, 2014）をジェンダーステレオタイプと呼ぶ。森永（2019）は、「男性は論理的で独立的」「女性は感情的で依存的」（森永, 2019）を男女のジェンダーステレオタイプとし、坂田（2014）は、「男性」のステレオタイプには、自信、独立、冒険的、決断力、支配、強さ、競争、などが含まれ、「女性」のステレオタイプには、配慮、相互依存、温かさ、繊細、養育、従属性、協力などが含まれるとしている（坂田, 2014）。また森永

（2017）は、社会で共有されている「理系は男性、文系は女性」「男性は数学が得意で、女性は数学が苦手」といった学問分野とジェンダーを結びつけたステレオタイプがあるとも述べている。

こうしたステレオタイプの思考は、批判的思考と関連することが示唆されている。たとえば、河野ら（2003）は、ステレオタイプの手がかりを含む行動文を提示し、刺激人物の特性評定を中学生である実験参加者に求めた。人についての批判的思考、すなわち柔軟な対人認知を促進するための授業を受講した実験群の中学生は、これを受講しなかった統制群の中学生に比べて、決めつけた判断が、少なくなることが示された。平山（2004）も、ステレオタイプのバイアスにとらわれず、客観的・多面的に思考することができるかどうかは、拡張的批判的思考力に依存するとしている。

道田（2003）は、批判的思考概念を整理する中

で、批判的思考にも創造的思考にも「アイディアの生成という創造的な面と、アイディアの選択という判断的な面の両方が含まれ、両者を明確に分けることは難しい」(p. 624)としている。すなわち、批判的思考がステレオタイプの思考と関連するとすれば、それは創造性におけるアイディアの生成、アイディアの選択のプロセスとも関連していることが考えられる。

実際、Mednick (1962) は創造性の高低に言及する中で、創造性が低い人は、ステレオタイプのアイデアをいくつか思いついた段階で、思考を止める傾向にあるが、創造性が低い人は、そうしたステレオタイプのアイデアでは満足せず、可能性が低そうなアイデアについても注意を向ける傾向があるとしている。同様に水越 (1970) は創造性の開発について考える論文の中で、創造性の特徴として、固い思考、型にはまった考え方 (ステレオタイプ) の打破という形で、解釈し直すことができる、と述べている。そこで、本研究では、創造性がジェンダースtereotypes的思考とどのように関連するのかについて検討することを目的とする。

Sternberg & Kaufman (2010) は、創造性の定義について、新規性 (novelty) と質 (quality) の2つの側面については、研究者間での共同認識とできるとしている。新規であり、かつ、良く (good) 有益 (useful) であるものを生み出す能力が、創造性である。また創造性を構成する思考方法を、課題を解決するために独自のアイデアを数多く作り出す拡散的思考 (divergent thinking) と、課題を明確にし、産出された数多くのアイデアから課題解決に役立つものを選別し、それをまとめ上げる収束的思考 (convergent thinking) とに分ける考え方がある (義村, 2014)。本研究では、創造性をパフォーマンスの視点から測定する日本語版 RAT と、主に態度の側面から測定する Basadur & Finkbeiner (1985) の創造性尺度の両面から測定し、これらが性差意識と関連していると仮説を立て、検討を行う。

II 方法

実験実施時期および実験場所

実験は2020年12月に実施された。大阪樟蔭女子大学清志館の普通教室が使用された。

実験参加者

大阪樟蔭女子大学に所属する大学生65名 (平均年齢20.0歳, $SD=1.36$) が実験に参加した。

創造性課題

創造性のパフォーマンスを測定する課題として、日本語版 Remote Association Test (寺井ら, 2013) が使用された。Remote Association Test (RAT: 遠隔連想テスト) は、創造性を測定するためのテストとして開発された (Mednick, 1962)。RAT は、拡散的思考が求められる課題であり、一貫した共通性を見つけにくい3つの単語が参加者に呈示される (たとえば“rat”, “blue”, “cottage”)。参加者の課題は、これら3つの単語とそれぞれ関連する共通の単語を見つけ出すことである (前述の単語の場合、答えは“cheese”)。Mednick (1962) が、デザイン・コースで学ぶ大学生の創造性についての教員評価と RAT の得点とが相関していること、また新しい手法を用いたり、異なる理論や研究分野を独創的な方法でまとめたりすることで測定される、研究における創造性と RAT の得点とが関連していることを報告している。この英語版 RAT の性質を担保しつつ作成された日本語版 RAT (寺井ら, 2013) は、呈示される問題語や見つけられるべき正解語を漢字一文字としている。英語版 RAT 同様、一貫した共通性を見つけにくい3つの漢字 (たとえば“異”, “口”, “序”) が参加者に呈示され、これら3つの漢字それぞれと結合して、熟語を構成する共通する漢字 (前述の漢字の場合は“論”) を発見することが課題となる。寺井ら (2013) においては、問題語として呈示される3つの漢字の下には、フィラーとして3つの漢字が表示された (図1参照)。これは、問題語とその下のフィラーとが熟語を構成する状況を作り出すことにより、解の発見に向かうプロセスに対して、チャンクによる問題解決の阻害を行うためである。各問題語と対にしてフィ

被 災 障	被 災 障
素 臭 権	害 害 害
(a) 呈示される刺激	(b) 問題語と正解

図1 日本語版 RAT (チャンクなし) の例

ラーを提示することにより、各問題語とフィラーとの間の意味的なチャンクを実験的に操作することが可能となり、たとえば、問題語とフィラーとが、「異郷」，“口癖”，“序盤”といった熟語を構成している「チャンクあり条件」では、問題語とフィラー語が“異台”，“口寒”，“序然”といった、熟語を構成しない「チャンクなし条件」よりも正答が難しくなる。本研究では、問題量と難易度による実験参加者への負担を考慮し、チャンクなしの日本語版 RAT のみを使用した。寺井ら（2013）において正解率が 95-45%の中難易度の問題を 12 問，正解率が 40-10%の高難易度の問題 4 問の計 16 問が使用された。

質問紙の構成

創造性に関する態度を測定するための尺度として、Basadur & Finkbeiner（1985）が作成した 14 項目からなる創造性尺度が使用された（表 1）。この尺度は，“概念化の選好（preference for ideation）”と“性急な批判的評価の選好（tendency for premature critical evaluation of ideas）”の 2 つの態度を測定できるよう意図されている。

“概念化の選好（preference for ideation）”は、積極的拡散であり、利用価値を考慮することより、多くのアイディアを生成することを好む傾向である（Basadur・若林・高井，1989）。拡散的思考においては、思考の流暢性（発想の数の多さ）、柔軟性（発想の多様さや柔軟さ）、独自性（発想の非凡さや稀さ）が重要だとされている。

一方の“性急な批判的評価の選好（tendency for premature critical evaluation of ideas）”は、性急な収束傾向であり、早合点に心に浮かんだアイディア（自分のまたは他人の）を批判的に評価しようとする傾向である（Basadur ら，1989）。性急な批判的評価の選好は、積極的拡散をむしろ

抑制し、ステレオタイプの「ありもの」の結論へと収束させる思考である。そして、これら 2 つの態度に関して言えば、積極的拡散が高いこと、そして性急な収束傾向が低いことが、拡散思考の実践と創造的問題解決のパフォーマンスを促進する重要な要素であるとされている（Basadur ら，1989）。

Basadur ら（1989），Basadur・Graen・高井・若林（1989）においては、この尺度の日本語版が使用されているが、当該論文には日本語版項目記載されていないため、本研究では独自に日本語訳を行った。日本語訳については、心理学を専攻する大学 4 年生 1 名と筆者とで協議を行い、決定した。この質問項目一覧について、表 1 に示した。これらの項目は一通りのランダムな順序で配置され、「全くあてはまらない（1）」から「非常によくあてはまる（5）」の 5 件法で回答が求められた。

次に、ジェンダー・ステレオタイプを測定するための尺度として、伊藤（2001）による性差覚醒状況における性差意識尺度 15 項目の内、複数の因子に負荷量が高いと見做される 2 項目を除外した 13 項目が使用された。この性差意識尺度は、「〇〇のときはやはり男／女でない」とあるいは「だから男／女ではだめなのだ」といった、性別を限定する表現（伊藤，2001）に関して、社会的場面や状況の特徴を明らかにすることにより、ジェンダー・ステレオタイプの中核的特性を抽出することを目的としている。伊藤（2001）の分析では、この尺度は、3 因子から構成され、第一因子は、女性が果たす役割の中で特に母親役割に限定された“母性”を測定する項目（たとえば「子供のちょっとした変化に気づくのは、やはり母親だと思う」など 5 項目）、第二因子は緊急事態や危機に直面した時の男性の力、パワーを記述した、“男性の頼もしさ”を測定する項目（たとえば「大地震や火事など緊急事態のとき、その場を取り仕切るのは、やはり男でないとだめだと思う」など 4 項目）、第三因子は、主に仕事上での女性の適性について記述したものであり、“公領域での女性の適性欠如”を測定する項目（たとえば「仕事のミスを指

表1 本研究に用いた Basadur & Finkbeiner (1985) の 14 の質問項目の日本語訳

Original	本研究における和訳
preference for ideation	
1. I feel that people at work ought to be encouraged to share all their ideas, because you never know when a crazy-sounding one might turn out to be the best.	馬鹿げて聞こえるものがいつ最高のものに転じるかわからないから、働く人々は自分のアイデアをすべて共有するように奨励されるべきだと感じる
2. One new idea is worth ten old ones.	一つの新しいアイデアは、10個の古いアイデアに値する
3. I think everyone should say whatever pops into their head whenever possible.	誰もが頭に浮かんだことを、可能な限り発言するべきだと思う
4. I like to listen to other people's crazy ideas since even the wackiest often leads to the best solution.	最も奇抜なものでさえ最良の解決策に繋がることがあるので、他の人の馬鹿げたアイデアを聞くのが好きだ
5. I feel that all ideas should be given equal time and listened to with an open mind regardless of how zany they seem to be.	どんなにふざけているように見えても、全てのアイデアに平等な時間を割り、心を開いて耳を傾けるべきだと感じる
6. The best way to generate new ideas is to listen to others then tailgate or add on.	新しいアイデアを生み出す最良の方法は、他の人の話を聞いてから、それに乗っかったり、それに何かを付け足したりすることだ
tendency for premature critical evaluation of ideas	
7. I should do some prejudgment of my ideas before telling them to others.	他の人に話す前に、自分のアイデアをあらかじめ確認する必要がある
8. We should cut off ideas when they get ridiculous and get on with it.	人々が馬鹿げた方向に進もうとするときには、そのアイデアをやめさせるべきだ
9. Quality is a lot more important than quantity in generating ideas.	アイデアを生み出す場面では、量よりも質の方がはるかに重要だ
10. A group must be focused and on track to produce worthwhile ideas.	価値のあるアイデアを生み出すには、グループは集中し、軌道を外さないようにする必要がある
11. Lots of time can be wasted on wild ideas.	とっぴな考えには、多くの時間が浪費されがちだ
12. Judgment is necessary during idea generation to ensure that only quality ideas are developed.	アイデアの生成時には、質の高いアイデアのみが開発されるよう、判断することが必要だ
13. You need to be able to recognize and eliminate wild ideas during idea generation.	アイデアの生成時には、とっぴなアイデアを認識して排除する能力が必要だ
14. I wish people would think about whether or not an idea is practical before they open their mouth.	口を開く前に、アイデアが実用的かどうかを考えてもらいたい

摘されて言い訳をする女性をみると、だから女はだめなのだと思う」など4項目)である。これらの項目を一通りのランダムな順で配置され、「そう思わない(1)」から「そう思う(4)」の4件法で回答が求められた。

装置

創造性課題の呈示は講義用教室に設置されたプロジェクターによって行われ、その制御にはLenovo社製ノートパソコンとMicrosoft PowerPoint 2016が用いられた。

手続き

実験参加者は、5人程度の集団で実験に参加し、まず創造性課題の説明を受けた。教室のプロジェクタ用スクリーン上に問題が呈示され、実験参加者には、配付された回答用紙に紙面上で回答することが求められた。問題語とフィラーは30秒間呈示され、正解語を発見した実験参加者は回答欄にそれを記入すること、正解語が不明であれば回答欄には何も記入しないことが教示された。なお、30秒経過後、問題が次の問題に進んだ場合は、それ以降その問題については考えないよう教示された。練習問題の後、本試行16問が連続して呈示された。RATが終了した後、尺度項目に対して個人ペースでの回答が求められた。

倫理的配慮

実験参加者募集および尺度への回答に際しては、実験の結果が統計的に処理され、個人の結果が問題とされないこと、結果は研究以外に使用されることはないこと、実験の参加は自由意志によるものであり、いつでも質問への回答を辞められることをフェイスシートに記載し、周知した。これらに同意する場合にのみ、実験に参加することが求められた。

III 結果

創造性尺度(Basadur & Finkbeiner, 1985) 14項目を対象に、改めて最小二乗法、プロマックス回転による因子分析を実施した¹⁾。因子の解釈可能性を判断し、3因子解が妥当と考え、項目や因子の解釈可能性や、どの因子にも因子負荷量

が|.40|未満であることや、複数の因子に対して因子負荷量が|.40|以上であることを考慮して、項目の削除を行った上で因子分析を繰り返し、9項目からなる3因子解を採択した。この結果を表2に示した。

第一因子は、「どんなにふざけているように見えても、全てのアイデアに平等な時間を割り、心を開いて耳を傾けるべきだと感じる」、「最も奇抜なものでさえ最良の解決策に繋がることがあるので、他の人の馬鹿げたアイデアを聞くのが好きだ」など3項目において因子負荷量が高く、Basadur & Finkbeiner (1985)の preference for ideationと同様の因子であると見做し、「積極的拡散の重視」と命名された。第二因子は、「価値のあるアイデアを生み出すには、グループは集中し、軌道を外さないようにする必要がある」、「人々が馬鹿げた方向に進もうとするときには、そのアイデアをやめさせるべきだ」など3項目において負荷量が高く、Basadur & Finkbeiner (1985)の tendency for premature critical evaluation of ideasと同様の因子であると見做し、「性急な収束の重視」と命名された。第三因子は「とっぴな考えには、多くの時間が浪費されがちだ」「アイデアの生成時には、質の高いアイデアのみが開発されるよう、判断することが必要だ」「新しいアイデアを生み出す最良の方法は、他の人の話を聞いてから、それに乗ったり、それに何かを付け足したりすることだ」の3項目に負荷量が高く、Basadur & Finkbeiner (1985)の preference for ideation, tendency for premature critical evaluation of ideasの双方から、アイデア生成の効率性に関わる項目に負荷量が高いことに注目し、「効率性の重視」と命名された。

信頼性検討のために、各因子が高い負荷を示した項目の得点についてCronbachの α 係数を算出したところ、表2に示したように、第一因子以外については、概ね信頼性係数が低かった。本研究では、以降、第一因子から第三因子まで、これに対応する下位尺度得点を算出し、分析に使用するが、信頼性が低い第二因子、第三因子の下位尺度

表2 創造性尺度の因子分析結果

	I	II	III	共通性
第I因子：積極的拡散の重視 ($\alpha = .727$, $M = 3.87$, $SD = 0.79$)				
どんなにふざけているように見えても、全てのアイデアに平等な時間を割き、心を開いて耳を傾けるべきだと感じる	.756	.011	-.098	.583
最も奇抜なものでさえ最良の解決策に繋がることがあるので、他の人の馬鹿げたアイデアを聞くのが好きだ	.745	.107	-.103	.550
馬鹿げて聞こえるものがいつ最高のものに転じるかわからないから、働く人々は自分のアイデアをすべて共有するように奨励されるべきだと感じる	.584	-.169	.208	.397
第II因子：性急な収束の重視 ($\alpha = .569$, $M = 2.87$, $SD = 0.76$)				
価値のあるアイデアを生み出すには、グループは集中し、軌道を外さないようにする必要がある	.050	.681	-.083	.411
人々が馬鹿げた方向に進もうとするとときには、そのアイデアをやめさせるべきだ	-.143	.526	-.213	.252
アイデアの生成時には、とっぴなアイデアを認識して排除する能力が必要だ	.076	.525	.321	.534
第III因子：効率性の重視 ($\alpha = .502$, $M = 3.07$, $SD = 0.72$)				
とっぴな考えには、多くの時間が浪費されがちだ	-.185	-.098	.631	.385
アイデアの生成時には、質の高いアイデアのみが開発されるよう、判断することが必要だ	.004	.333	.510	.533
新しいアイデアを生み出す最良の方法は、他の人の話を聞いてから、それに乗ったったり、それに何かを付け足したりすることだ	.165	-.172	.432	.176
因子間相関				
I	—	-.126	-.029	
II		—	.479	
III			—	

表3 本研究における創造性尺度内の相関行列

	積極的拡散の重視	性急な収束の重視	効率性の重視
積極的拡散の重視	—		
性急な収束の重視	-.111	—	
効率性の重視	-.040	.318 *	—

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

得点にまつわる解釈については、参考程度のものとして扱っていく。

各因子に負荷量の高い項目の平均値を個人ごとに算出し、これを個人の下位尺度得点とした。そのうえで、各因子に対応する下位尺度得点の平均

値および標準偏差を算出し、これを表2に示した。

次に、創造性尺度の下位尺度得点間相関を算出し、この結果を表3に示した。なお本研究で、相関係数については、Cohen (1992) に倣い、 $|r| = .10$ を効果量小、 $|r| = .30$ を効果量中、 $|r| = .50$

を効果量大と判断した。性急な収束の重視と効率性の重視との間にも5%水準で有意な正の相関が認められた。

次に性差意識尺度13項目に対して、改めて最小二乗法、プロマックス回転による因子分析が実施された。因子の解釈可能性を判断し、5因子解が妥当と考え、項目や因子の解釈可能性や、どの因子にも因子負荷量が|.40|未満であることや、複数の因子に対して因子負荷量が|.40|以上であることを考慮して、項目の削除を行った上で因子分析を繰り返し、12項目からなる5因子解を

採択した。この5因子解においては、第三因子に負荷する（負荷量の高い）項目は1項目（「大地震や火事など緊急事態のとき、その場を取り仕切るのは、やはり男でないとだめだと思う」）存在するのみであり、通常、因子を構成する尺度構成としてはやや不適切ではあるものの、因子分析結果全体の解釈可能性を優先し、第三因子に負荷する1項目の得点そのものを、この下位尺度得点と見做して分析を続行する。因子分析表については、表4に示した。

第一因子は、「仕事上で重大なトラブルが生じ

表4 性差意識尺度の因子分析結果

	I	II	III	IV	V	共通性
第I因子：特定場面におけるジェンダー適性 ($\alpha = .706$, $M = 2.10$, $SD = 0.65$)						
仕事上で重大なトラブルが生じたとき、それを解決するのは、やはり男でないとだめだと思う	.779	-.237	-.224	-.083	.007	.709
健康や生活にかかわることがらに敏感なのは、女性だと思う	.644	.301	.147	-.101	-.197	.551
人から危害を加えられそうになったとき、身を守るには、やはり男でないとだめだと思う	.616	.098	.022	.180	-.015	.463
重いものを運んでもらうとき、やはり男でないとだめだと思う	.601	-.116	.194	.137	.159	.374
第II因子：養育場面におけるジェンダー適性 ($\alpha = .702$, $M = 2.32$, $SD = 0.85$)						
子どもが病気などで苦しんでいるとき、それをわがごとくして感じとれるのは、やはり母親だと思う	-.082	.943	-.032	-.010	-.009	.845
子どもが小さいうちは、やはり母親でないとだめだと思う	.358	.443	-.158	-.054	.177	.634
第III因子：緊急場面におけるジェンダー適性 ($M = 1.69$, $SD = 0.83$)						
大地震や火事など緊急事態のとき、その場を取り仕切るのは、やはり男でないとだめだと思う	-.079	.058	-1.040	.078	-.048	1.006
第IV因子：教育場面におけるジェンダー適性 ($\alpha = .531$, $M = 1.72$, $SD = 0.52$)						
中学・高校の生徒指導はやはり男性教師でないとだめだと思う	.049	-.132	-.024	.674	-.104	.425
年頃の女の子の気持ちは、やはり母親でないとわからないと思う	.270	.069	-.006	.560	-.029	.411
産休や育休で休職をする女性教師のクラスの子どものことを考えると、だから女性教師に担任されるのは困ると思う	-.080	.058	-.116	.521	.146	.335
第V因子：女性蔑視 ($\alpha = .480$, $M = 1.50$, $SD = 0.57$)						
公の場での私語の多さをみると、だから女はだめなのだと思う	.169	-.074	-.057	-.125	.715	.563
仕事のミス指摘されて言い訳をする女性をみると、だから女はだめなのだと思う	-.162	.112	.159	.149	.544	.389
因子間相関						
I	—	.372	-.403	.042	.235	
II		—	-.193	.079	.180	
III			—	.174	-.168	
IV				—	.290	

たとき、それを解決するのは、やはり男でないとだめだと思う」、「健康や生活にかかわることがらに敏感なのは、女性だと思う」など4項目において因子負荷量が高く、トラブルを抱えた場合、などの特定の場面での性差意識に関する態度であり、“特定場面におけるジェンダー適性”と命名された。第二因子は、「子どもが病気などで苦しんでいるとき、それをわがごとくとして感じとれるのは、やはり母親だと思う」、「子どもが小さいうちは、やはり母親でないとだめだと思う」の2項目に負荷量が高く、子育ての場面では女性に適性があるとする態度であり、“養育場面におけるジェンダー適性”と命名された。第三因子は「大地震や火事など緊急事態のとき、その場を取り仕切るのは、やはり男でないとだめだと思う」の1項目のみに負荷量が高く、“緊急場面におけるジェンダー適性”と命名された。第四因子は、「中学・高校の生徒指導はやはり男性教師でないとだめだと思う」、「年頃の女の子の気持ちは、やはり母親でないとわからないと思う」などの3項目に負荷量が高く、教育の場面においての対応に関する性差意識であり、“教育場面におけるジェンダー適性”と命名された。第五因子は、「公の場での私語の多さをみると、だから女はだめなのだと思う」、「仕事のミスを指摘されて言い訳をする女性をみると、だから女はだめなのだと思う」の2項目に負荷量が高く、女性を蔑視する態度であり、“女性蔑視”と命名された。

信頼性検討のために、各因子が高い負荷を示し

た項目の得点について Cronbach の α 係数を算出したところ（第三因子を除く）、表4に示したように、第一因子、第二因子以外は、概ね信頼性係数が低かった。本研究では、以降、第一因子から第五因子まで、これに対応する下位尺度得点を算出し、分析に使用するが、信頼性が低い第三因子から第五因子までの下位尺度得点にまつわる解釈については、参考程度のもので扱う。

各因子に負荷量の高い項目の平均値（第三因子を除く）を個人ごとに算出し、これを個人の下位尺度得点とした。そのうえで、各因子に対応する下位尺度得点の平均値および標準偏差を算出し、これを表4に示した。

次に、性差意識尺度の下位尺度得点間相関を算出し、この結果を表5に示した。相関係数を検討した結果、“養育場面におけるジェンダー適性”が“特定場面におけるジェンダー適性”、“緊急場面におけるジェンダー適性”と1%水準での有意な正の相関を示した。また、“特定場面におけるジェンダー適性”は、“緊急場面におけるジェンダー適性”、“教育場面におけるジェンダー適性”と、“女性蔑視”は“養育場面におけるジェンダー適性”、“教育場面におけるジェンダー適性”と10%水準で有意な正の相関を示した。

次に、日本語版 RAT の得点の算出方法について記す。日本語版 RAT の得点について、それぞれの問題に対して正しく回答できている場合に1点、それ以外を0点とした。日本語版 RAT16問の合計得点を個人ごとに算出し、これを日本語

表5 本研究における性差意識尺度内の相関行列

	特定場面	養育場面	緊急場面	教育場面
特定場面におけるジェンダー適性	—			
養育場面におけるジェンダー適性	.488 **	—		
緊急場面におけるジェンダー適性	.244 [†]	.375 **	—	
教育場面におけるジェンダー適性	.241 [†]	.133	.013	—
女性蔑視	.155	.234 [†]	.067	.213 [†]

** $p < .01$, * $p < .05$, [†] $p < .10$

表 6 日本語版 RAT 得点と他の尺度との相関係数

	日本語版RAT得点
特定場面におけるジェンダー適性	-.045
養育場面におけるジェンダー適性	-.218 [†]
性差意識 緊急場面におけるジェンダー適性	.003
教育場面におけるジェンダー適性	.083
女性蔑視	-.103
積極的拡散の重視	.048
創造性 性急な収束の重視	-.323 ^{**}
効率性の重視	-.046

^{**} $p < .01$, ^{*} $p < .05$, [†] $p < .10$

表 7 創造性尺度と性差意識尺度との相関係数

	積極的拡散の重視	性急な収束の重視	効率性の重視
特定場面におけるジェンダー適性	-.071	-.191	.138
養育場面におけるジェンダー適性	.059	.013	.158
緊急場面におけるジェンダー適性	-.101	.055	.113
教育場面におけるジェンダー適性	.101	-.134	-.111
女性蔑視	.035	.237 [†]	.229 [†]

^{**} $p < .01$, ^{*} $p < .05$, [†] $p < .10$

版 RAT 得点（16 点満点）とした。日本語版 RAT 得点の平均値は 7.82、標準偏差は 2.28 であった。

日本語版 RAT 得点と、創造性尺度の下位尺度、および性差意識尺度との相関係数を算出した。この結果を表 6 に示した。その結果、日本語版 RAT 得点と本研究における性差意識尺度下位尺度との間には、“養育場面におけるジェンダー適性”との間に 10%水準で有意な負の相関が認められた以外には、有意な相関は認められなかったが、本研究における創造性尺度の下位尺度のうち、“性急な収束の重視”との間に、1%水準で有意な負の相関（効果量中）が認められた。すなわち、日本語版 RAT 得点は、性急な収束を重視しないことで、得点が高くなることが示唆された。さらに、養育場面におけるジェンダー適性を意識していない人ほど、得点が高くなる傾向が示唆された。

次に、本研究における創造性尺度の下位尺度と、性差意識尺度の下位尺度間の相関係数を求めた。この結果を表 7 に示した。その結果、女性蔑視と性急な収束の重視、効率性の重視の間に 10%水準で有意な正の相関（効果量小）が認められた。すなわち、女性蔑視の傾向を示す調査対象者は、創造的な問題解決において、性急な収束や効率を重視した方略を採りやすいことが示された。

IV 考察

本研究では、日本語版 RAT、創造性尺度の 2 種類の方法で測定される女子大学生の創造性が、性差意識とどのように関連しているのかを検討した。まず、日本語版 RAT 得点と、質問紙で測定される創造性尺度との関連については、性急な収束の重視のみが日本語版 RAT 得点と相関してい

た。これは、この課題で正答するには、収束を急がない態度が重要であり、日本語版 RAT が測定するのは、拡散よりもむしろ収束の抑制であることを示唆している。すなわち、一度入ってしまった思考の袋小路から抜け出せない（たとえば、手がかり漢字から推測される、正解ではない特定の漢字二字熟語に固執してしまう）ことが、課題の正答には障害となると解釈することができる。

創造性と性差意識との関連については、養育場面におけるジェンダー適性意識と日本語版 RAT 得点とが関連していること、さらに、女性蔑視が性急な収束の重視および効率性の重視と関連していることが示された。これらの関連は、個人の情報処理における特質として、効率性を重視し、収束を急ぐ傾向が性差意識にもつながりうることを示唆するものである。特に今回の研究においては、女性はこうだ（からダメだ）、と決めつけるような女性蔑視が、情報処理における個人特性と関連していることが示唆された。ステレオタイプの思考そのものは、情報処理の効率化を目指す過程でヒトが獲得してきた情報処理の様式であるが、一方では、認知のバイアスであると考えることができる。小学校教諭や女子大学に勤務する職員を対象に質問紙調査を行った矢野（2019）は、性別特性観が強い人ほど、教科に対する性差を大きく認識するという関連性を見出した。矢野（2019）はこれを「性差を信じる人には性差が「みえ」、性差を信じていない人には性差は「みえない」ということである。すなわち、ジェンダー・ステレオタイプの再生産プロセス」（p. 81）であると議論しているが、矢野（2019）が「みえ」と呼んでいるものは、認知そのものであり、「みえ」る「みえない」の差異は、認知のバイアスであると考えることができる。また、水越（1970）は、創造性の教育について論じるなかで、「創造にとってもっともマイナスになるのは、型にはまった発想に固執することだと言われる。科学的発見や芸術的創造は、すべて既成の観念やパターンの打破から出発している。ではそうした固さやステレオタイプの逆、つまり私たちが創造性の教育において育成

しようとするものは、どんなものなのか。それは柔軟でしかも能動的な適応性ということになるだろう。」（pp. 16-17）と述べている。ここでも、ステレオタイプの思考が、創造性の対極として論じられている。以上のように、性差意識のようなステレオタイプの思考からの脱却は、創造性の獲得との関連が示唆された。

近年、創造性教育の方法論についても議論がされている（たとえば井上・三枝，2019）。創造性の教育は、性差意識からの脱却という視点からも有用であることが示唆される。

付記

本研究のデータは、2020 年度に提出された学芸学部心理学科認知心理学ゼミ 柏木恵依氏の卒業論文によるものであり、筆者が再分析を行った。ここに記して感謝の意を表する。

注

- 1) Basadur, & Finkbeiner (1985) と同様に 2 因子での因子分析を実施したところ、項目の分かかれ方は Basadur, & Finkbeiner (1985) と整合的であったが、因子付加量が低い項目が見受けられたため、改めての因子分析を実施することとした。

文献

- Basadur, M. & Finkbeiner, C. T., (1985). Measuring preference for ideation in creative problem solving training. *Journal of Applied Behavioral Science*, 21, 37-49.
- Basadur, M.・Graen, G.・高井次郎・若林満 (1989). 創造的問題解決に対する態度と教育訓練後の態度変容. 経営行動科学, 4, 19-27.
- Basadur, M.・若林満・高井次郎 (1989). 創造的問題解決訓練が日本人管理者の拡散思考に対する態度に及ぼす効果. 経営行動科学, 4, 75-82.
- Cohen, J. (1992). A power primer. *Psychological Bulletin*, 112, 155-159.
- 平山るみ (2004). 批判的思考を支える態度およ

- び能力測定に関する展望. 京都大学大学院教育学研究科紀要, **50**, 290-302.
- 井上勇一・三枝省三 (2019). イノベーション創出に向けた創造性トレーニングに関する研究～漢詩読解による創造性トレーニング～. 就実経営研究, **5**, 23-39.
- 伊藤裕子 (2001). 性差覚醒状況におけるジェンダー・ステレオタイプ. 心理学研究, **72**, 443-449.
- 河野康世・大坪靖直・吉田寿夫 (2003). 中学生を対象とした柔軟な対人認知を促進する授業の開発. 日本教育心理学会総会第45回総会発表論文集, 364.
- 道田泰司 (2003). 批判的思考概念の多様性と根底イメージ. 心理学評論, **46**, 617-639.
- 森永康子 (2017). 「女性は数学が苦手」—ステレオタイプの影響について考える—. 心理学評論, **60**, 49-61.
- 森永康子 (2019). ジェンダー・ステレオタイプと科学教育：社会心理学的研究からの示唆. 日本科学教育学会第43回年会論文集, 7-8.
- 水越敏行 (1970). 創造性の教育と発見学習. 金沢大学教育学部教科教育研究, **3**, 13-21.
- 小川真理絵・和田正人 (2021). インターネット接触が職業におけるジェンダー・ステレオタイプに及ぼす影響. 東京学芸大学紀要 総合教育科学系, **72**, 517-527.
- 坂田桐子 (2014). 選好や行動の男女差はどのように生じるか：性別職域分離を説明する社会心理学の視点 (特集 労働市場における男女差はなぜ永続的か). 日本労働研究雑誌, **56**, 94-104.
- 清水大地 (2019). 創造性の枠組み・測定手法に関するレビュー論文の紹介. 認知科学, **26**, 283-290.
- Sternberg, R. J. & Kaufman, J. C. (2010). Constraints on creativity: Obvious and Not So Obvious. In J. C. Kaufman, & R. J. Sternberg (Eds.). *The Cambridge handbook of creativity*. Cambridge University Press., pp. 467-482.
- 高井範子・岡野孝治 (2009). ジェンダー意識に関する検討. 太成学院大学紀要, **11**, 61-73.
- 寺井仁・三輪和久・浅見和亮 (2013). 日本語版 Remote Associates Test の作成と評価. 心理学研究, **84**, 419-428.
- 脇田彩 (2021). ジェンダーと職業威信：ジェンダー・ステレオタイプに注目して. 理論と方法, **36**, 51-64.
- 矢野円郁 (2019). 小学校教諭におけるジェンダー意識と教科学習能力の性差に対する認識の関係—ジェンダー・ステレオタイプの再生産防止のために—. 神戸女学院大学論集, **66**, 73-84.
- 義村敦子 (2014). 創造性概念と人的資源管理に関する考察. 成蹊大学経済学部論集, **45**, 91-100.